

令和6年度第1回湯沢町総合戦略推進会議 要旨

日時	令和6年5月29日（水）10:00～12:00
場所	湯沢町役場3階 大会議室
次第	・町長あいさつ ・委嘱状の交付 ・自己紹介 （議事） 1. 委員長及び副委員長の選出（資料1） 2. 現行計画の推進状況と評価について（資料2） 3. 町民アンケートの実施について（資料3） 4. 今後のスケジュールについて（資料4） ・その他
出席者	氏名（所属・役職）
	・ 鷲見 英司 委員 （日本大学経済学部教授） ・ 綿貫 靖夫 委員 （湯沢町商工会会長） ・ 岡 淳朗 委員 （一般社団法人湯沢町観光まちづくり機構代表理事） ・ 千代 達彦 委員 （東日本旅客鉄道株式会社越後湯沢駅駅長） ・ 高橋 政弘 委員 （社会福祉法人湯沢町社会福祉協議会会長） ・ 星名 秋彦 委員 （新潟県南魚沼地域振興局局長） ・ 竹樋 渉 委員 （第四北越銀行 湯沢支店支店長） ・ 桑原 優 委員 （新潟県信用組合 湯沢支店 支店長） ・ 南雲 有華 委員 （町民） ・ 角谷 真一郎 委員 （町民） ・ 上村 貴子 委員 （町民）
	（欠席） ・ 剣持 崇紀 委員 （町民）

内容	
	・町長あいさつ ・委嘱状の交付 ・自己紹介
(議事) 1. 委員長及び副委員長の選出(資料1)	
湯沢町総合戦略推進会議設置要綱第5条の規定により、委員長、副委員長を互選により選出としているが、立候補者がいなかったため、事務局から委員長に日本大学経済学部教授の鷺見先生、副委員長に湯沢町商工会長の綿貫様を推薦し、承認いただいた。	
(議事) 2. 現行計画の推進状況と評価について(資料2)	
(以降、委員長が進行)	
鷺見委員長	現行計画の推進状況と評価について事務局から説明をお願いします。
(資料2に基づいて事務局説明)	
鷺見委員長	まず、基本目標1について委員の皆様から意見ありますか。
鷺見委員長	・起業件数の実績値9件の詳細はなにか。
事務局	・起業サポート補助金の実績7件と地域おこし協力隊の起業補助金が2件で、合わせて9件としています。
高橋委員	・中子町有地の活用について、汚染物質等の問題はどうか。
事務局	・中子町有地は今も企業誘致募集している。問題とされた汚染物質等については除去済、水質モニタリングを行い土壌汚染については解消されている。ただし、埋設廃棄物については、そのままである。土壌汚染が解消されているので、売却は可能であるので企業への働きかけは行っているが成果に繋がってはいない。今後の課題である。
上村委員	・介護や医療の就業について、離職率が高いと感じている。就労者がやりがいを感じるような何か対策はしているか。
事務局	・現行の戦略では具体的な施策はなかった。 ・介護や医療職の方、また湯沢では第3次産業が多いことをもめるため今後の戦略においては「やりがいを感じて働くことができる町」のために働き方改革などの施策も重要であると考えている。
鷺見委員長	次に、基本目標2について委員の皆様から意見ありますか。
鷺見委員長	・事業継承について商工会との体制構築がなされていたのか、試みがなされて把握できていないのか状況を知りたい。
事務局	・特に宿泊施設の事業継承が進まない課題があったので、商工会と地域の金融機関と新潟県の産業総合の担当と議論したり事業継承の流れリーフレット作成したが、その後について商工会と情報共有できてはいない。
鷺見委員長	・前の総合戦略策定の際にも、合同企業説明会のことなどについて議論が活発にされていたと思うが、情報共有されていないのはコロナのためなのか。

事務局	・ KPI 設定があいまいだったため数値として出せないでいない状況である。
高橋委員	・ インターンシップ受入れ数も低いが原因や要因はなにか。
事務局	・ 目標値が高すぎたほか、希望する世代への情報発信が届いていない。SNS 等が有効と思われるが、発信ノウハウが無く実績に繋がっていないのではないかと思われる。
南雲委員	・ インターンシップ、企業説明会への参加者の年代やどの方面からの参加なのか等は集計値がわかるか。
事務局	・ 今、手元には資料が無いが、お調べしてお伝えしたいと思います。
綿貫 副委員長	・ インターンシップの結果が実際よりも少ない気がする。商工会等とすり合わせが必要なのではないか。 ・ 企業にアンケートをするのもいいかもしれない。 ・ 私の会社でもインターンシップは多く取っている。海外からは半年～1年で来てもらっている例もある。国内だと短期というケースもある。最終目標はインターンシップ参加者が就労することであり、行政として支援が難しいかと思うが、企業と希望者がマッチングするための支援が必要。 ・ コロナの影響で、働き方、や就職活動のやり方も変わってきている。そのへんの情報提供が商工会の役割だと感じている
岡委員	・ DMO（観光まちづくり機構）としてもインターンシップの実績はもっとあると思う。DMO の事務局で把握している数があるので聞いてほしい。
事務局	・ インターンシップの実績については改めて確認してみたいと思う。
岡委員	・ 外国人労働者関連について、インバウンドが爆発的に増えていることからビジネスのルールづくりをするために、DMO では外国人企業者を集めて話し合いの場ができるようにしたいと考えている。
鷲見委員長	次に、基本目標 3 について委員の皆様から意見ありますか。
千代委員	・ 新幹線通勤について実績が少ないようですが、コロナでの環境変化でし ょうか
事務局	・ コロナの影響でリモートワークの普及などワークスタイルが変化したことは利用者が増えなかった一つの要因だと感じている。 ・ 今後もこの支援を継続するのであれば、多様なワークスタイルに対応できるかということも検討する必要があると考えている。
鷲見委員長	・ JR では、新幹線通勤をしている方の動向などは把握できるのですか。
千代委員	・ 定期券の発券方法もいくつかあることなどもあり、通勤の動向について把握はしていない。

鷺見委員長	次に、基本目標 4 について委員の皆様から意見ありますか。
高橋委員	・ 出生数については、大事な問題なので計画に入れないわけにはいけないと思うが、世の中の風潮として、男女の区別、性別の扱いが多様化してきているので、出生数をどう伸ばしていくかということを、今後の計画に定めていくことも難しくなっているのではないかと思います。
岡委員	・ 子供とは何歳までのことを言っているのですか。 ・ 町内に高校がなくなって、高校に行くには町外に行くしかない状況がある。改めて、保育園から中学校までの一貫校になった湯沢学園設立のときの経緯を教えてください。
事務局	・ 子供については児童福祉法に定める年齢、いわゆる高校生 18 歳までと想定している。 ・ 湯沢学園の設立について、まず、高校は県の管轄になりますが、生徒数の減少ということが廃校に至った県の方針でやむを得ない状況だったのかと思う。また、保育園や小学校の統合については、町として 5 つの学校と保育園を維持するより、統合した方が長い目の見たときのランニングコストを抑えられるといった点、また遠方からの通いとなる三国、三俣地区の保護者から少人数よりも大勢の友達がいる環境で学べるほうが良いというような理解の声も多かったことが、この統合がうまくいった要因だと感じている。
鷺見委員長	次に、基本目標 5 について委員の皆様から意見ありますか。
綿貫副委員長	・ 観光業にとってはコロナの 3 年間は地獄であった。コロナという大きな問題が、消費トレンドや就職、働き方に大きな影響を与えている。 ・ 多くの観光客が訪れていただくことが観光立町の基幹産業として重要だが、オーバーツーリズム対策や、冬だけの観光、夏だけの観光ということにならないように民間企業と DMO が一緒に取り組むことが必要だと思う。 ・ 基本目標 4 の話に戻る感じになるが、出生数に関しては、コロナの影響にかかわらず不変的なものであると思うが、観光客数に左右される湯沢町の経済状況なども影響されることもあると思う。 ・ 湯沢学園統合の話で追加すると、当時、大きな地震があった関係で、各施設の耐震調査した結果、三国小学校以外耐震性が足りていなかった。耐震性が足りていない施設を全て建て替えるとなると莫大な予算が必要になるのでといった話もあったと記憶している。
鷺見委員長	最後の基本目標 6 についてはアンケート結果が出てみないと十分な評価ができないという状況ですので、全体を通して、委員の皆様から意見ありますか。

南雲委員	・保育士不足について、現状どうなっているか。
事務局	・出生は減っているが未満児保育は増えている。待機児童が出ないように追加で建物を整備したが保育士が不足している状況。 ・働き方改革や保育士の働く環境については、今後考えていかなければいけないと考えている。 ・他の自治体についても保育士が不足していると聞いている。湯沢町は賃金的には近隣自治体よりも悪くない。民間よりも公務員のほうが賃金がいいということもあるが、採用ができていない現状。 ・マッチボックスの活用なども検討をすすめている。
南雲委員	・移住と保育士就労がつながる施策があるといいと思う。
鷲見委員長	・現行計画の進捗状況と評価としては以上としたいと思いますが、次回以降、新たな戦略を練っていくときに、皆様からまた活発なご議論をいただけたらと思います。 ・その他にも、何点か情報を訂正や追加等していただく項目があったかと思いますが、次回の会議で、事務局から補足をお願いしたいと思います。
(議事) 3. 町民アンケートの実施について (資料3)	
鷲見委員長	次に、町民アンケートの実施について事務局から説明をお願いします。
(資料3に基づき事務局から説明)	
角谷委員	・オールユースでも、湯沢を離れた人の意見を聞くことにヒントがあると考えている。そこをやるのはオールユースの役割かとも感じている。
事務局	・20代前半の女性転出が大きな要因であるので、オールユースのみならずのお友達などでつながる範囲でできることであればありがたいと思う。
星名委員	・調査項目は前回実施した時と同様か。
事務局	・前回の内容を引き継いでいるものもあるが、回答しやすくするため設問数を減らしたところもある。
星名委員	・子どもの有無と配偶者の有無がリンクしていると思うが、配偶者が居なくても子どもがいる人への対応が必要なのではないか。
事務局	・対応を検討したいと思う。
竹樋委員	・アンケート対象が39歳までだが、40代もまだ子育て世代かと思う。調査対象としていないのはなぜか。
事務局	・前回実施した時と同じ年代を対象にしたため。
鷲見委員長	・40代前半の女性の出産数も上がってきている。ただ、今回のアンケートはあまり子育てのことに關しての設問もないので、今後40代前半の女性の出産数が顕著に増えてきたら検討してもいいかもしれない。

事務局	・対象年齢について検討をしてみたいと思うが、今回のアンケートは、結婚や出産に関する設問が多く、子育てに関する問はあまり多くないので、今回は 39 歳以下の年代を対象とさせていただくかもしれない。
鷺見委員長	・最終的なアンケートの修正については、委員長の私が事務局と調整させていただくということによろしいでしょうか。（一同承諾）
（議事） 4．今後のスケジュールについて（資料 4）	
鷺見委員長	次に、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。
	（資料 4 に基づき事務局から説明）
	（委員からの質問なし）
鷺見委員長	以上で議事のすべてが終わりましたので進行を事務局に戻します。
その他	
事務局	その他は事務局では用意してありませんが、皆様から何かありますでしょうか。無いようであれば、本日の会議は以上で終了とさせていただきます。